

1 実践の概要

タイトル	総合学科を生かした激甚災害における避難所の設置訓練（能代西高等学校）
概要	<p>M7. 5以上の地震発生後の避難所設営の初期対応を想定した避難訓練を実施</p> <p>期日：平成25年10月18日（金）</p> <p>場所：能代西高等学校 校舎</p> <p>時間帯：授業時間：5～6校時（13：02～15：20）</p> <p>参加者：全校生徒287名・教職員55名、介護老人施設入所者8名・職員7名 消防署員3名</p>

2 実践内容

実践方法と進め方	工夫した点○ 苦勞した点●
<p>1 事前打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内：職員会議・各系列職員・系列生徒の事前準備や当日の動きの確認 ・校外：消防署・老人ホームとの打ち合わせ <p>2 防災訓練当日</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 13:05 本部設置 (2) 13:15 関係職員の招集・指示 (3) 13:20 各系列で作業開始 (4) 13:30 避難者への対応訓練開始 (老人・けが人・幼児・一般) (5) 13:45 消防署への通報訓練 (6) 14:30 作業停止 (7) 14:35 全員前庭集合 けが応急措置方法・簡易タンカ製作 ・消火器使用方法の学習 (8) 15:00 消防署からの指導・講評 (9) 15:10 訓練終了 (10) 15:20 炊き出し(そばなべ)の供給 	<p>●実践的訓練を想定し、リアルに行動するための手立ての企画が大変であった。</p> <p>○激甚災害発生後に地域住民が避難してきたことを想定し、その時点で本校及び本校職員と生徒ができること(応急処置)を考え、その後に行政及び救援隊の指示に従うこととして計画した。</p> <p>○総合学科という特性を生かし、災害時でも系列毎に実務的用務を担うことができるようにする。</p> <p>※1年生は、避難者役</p> <p>※具体的な各系列の役割分担について(2・3年)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①総合進学：本部設置の補助、校内誘導と巡回指導 本部と各部署の連絡、状況の把握 ②ビジネス：受付、個人情報の収集、避難者名簿の作成 個人の状況を考慮した誘導 ③情報科学：電源の確保、暖房や照明の設置と操作 仮設トイレの製作と設置 ④生活福祉・保健体育科：けが人の応急処置、老人介護 幼児のメンタルケア、安置所の設置 ⑤生物資源：水・お湯の確保、食材の確保と炊き出し <p>○各系列の3年生が2年生に、作業しながら指導した。</p> <p>○安全に避難場所まで移動できるように、生徒が一人一人に付き添って誘導した。</p>

協力・連携先の分類	団体名・組織名	協力・連携の内容
地域組織	・ショートステイしらかみ	・訓練事前打ち合わせ ・地域住民としての避難（誘導、住民リスト作成、避難者対応）
国・地方公共団体・公共施設	・能代山本広域市町村圏 消防本部	・訓練事前打ち合わせ ・応急手当の方法や簡易タンカの作成指導 ・指導講評・全体指導

3 成果と課題

成 果	<ol style="list-style-type: none"> 職員・生徒が避難所の設置や避難者への対応について体験でき、具体的で共通のイメージを持つことができたとともに、生徒の意識が高まった。 専門性を生かした各系列毎の訓練により、生徒各自の役割を理解し、チームとして対応することの意義を再認識する契機となった。 改善点や問題点が明確になってきた。
課 題	<ol style="list-style-type: none"> 指示・報告は生徒の動きに頼っていたので、無線などを使用する訓練が必要である。 けがした人の応急手当場所よりも、その後に休む場所の確保が必要である。 各系列職員の役割は明確であったが、普通科職員の動きが不明瞭であった。 災害発生後、学校付近に住む生徒が少なく、避難所として人員の確保が難しい。 本校の地理的条件を考えれば、物資の備蓄基地や長期滞在場所となる可能性が高い。
今後の継続予定	<ol style="list-style-type: none"> 無線・トランシーバーの操作・応答の仕方を含め、情報伝達の方法を考慮する。 能代市や関係機関との連携を図り、広い視野からの本校の訓練を在り方を考え直す。 高校3年間の訓練を通して、生徒の意識喚起と役割認識のため、継続的に実施する。

